

## 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために 実施した調査結果 経年比較

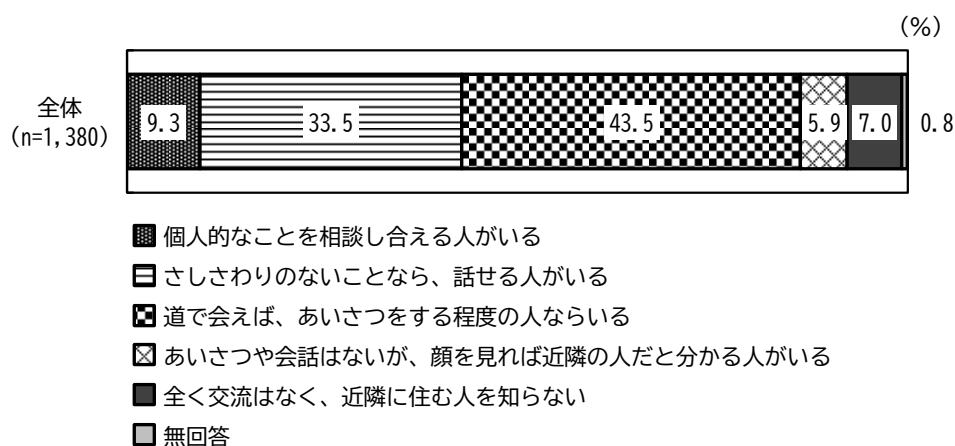
注) 選択肢の表記は今回調査を基本とした。選択肢の変更があったものについては、〈参考(前回調査)〉として、記載している。また、選択肢が当該年度調査にない場合は「-」と表記している。

### 1 近所づきあいの現状：問2

今回調査は、「個人的なことを相談し合える人がいる」が9.3%となっているが、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」が33.5%、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が43.5%と多くなっている。

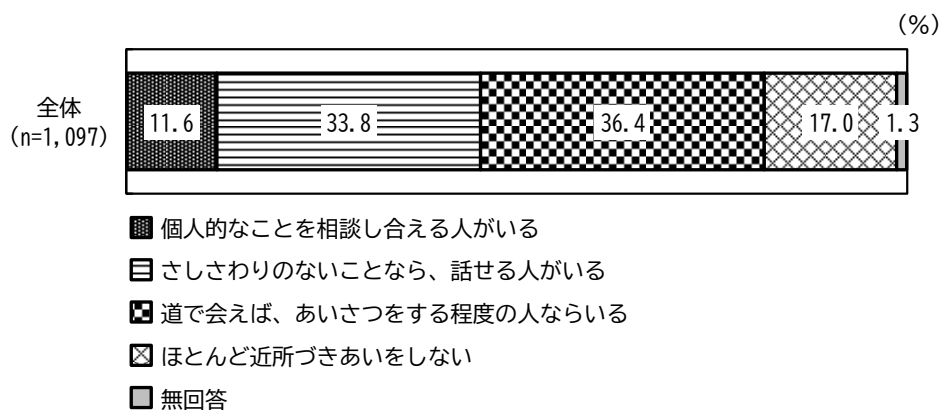
前回調査では選択肢が一部異なるが、「個人的なことを相談し合える人がいる」が11.6%となっている。

図表 近所づきあいの現状（全体）



〈参考(前回調査)〉

図表 近所づきあいの現状（全体）



前回調査では選択肢が一部異なるが、福祉6圏域別にみると、前回調査では「個人的なことを相談し合える人がいる」が第一地区、第二地区、第五地区、第六地区で1割を超えていたが、今回調査では、第一地区のみ1割を超えている。

図表 近所づきあいの現状（全体、福祉6圏域別）

(%)

			個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなから、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話は顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人知らない	無回答
全体		(n=1,380)	9.3	33.5	43.5	5.9	7.0	0.8
福祉6圏域	第一地区	(n=288)	11.8	28.8	43.1	8.3	8.0	0.0
	第二地区	(n=263)	9.9	35.7	42.6	4.6	7.2	0.0
	第三地区	(n=229)	8.7	33.2	47.6	4.4	4.8	1.3
	第四地区	(n=169)	8.3	33.1	42.6	8.3	7.7	0.0
	第五地区	(n=171)	7.0	40.4	43.2	2.3	5.3	1.8
	第六地区	(n=243)	9.5	32.1	43.6	6.6	7.4	0.8

<参考（前回調査）>

図表 近所づきあいの現状（全体、福祉6圏域別）

(%)

			個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなから、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	ほとんど近所づきあいをしない	無回答
全体		(n=1,097)	11.6	33.8	36.4	17.0	1.3
福祉6圏域	第一地区	(n=217)	10.6	34.6	35.9	18.0	0.9
	第二地区	(n=211)	14.7	30.3	37.9	17.1	0.0
	第三地区	(n=183)	8.7	33.3	34.4	21.3	2.2
	第四地区	(n=143)	9.1	35.7	38.5	16.1	0.7
	第五地区	(n=139)	13.7	35.3	38.1	12.2	0.7
	第六地区	(n=191)	12.0	36.1	34.6	14.7	2.6

## 2 近所づきあいのない理由：問2-1（複数回答（3つまで））

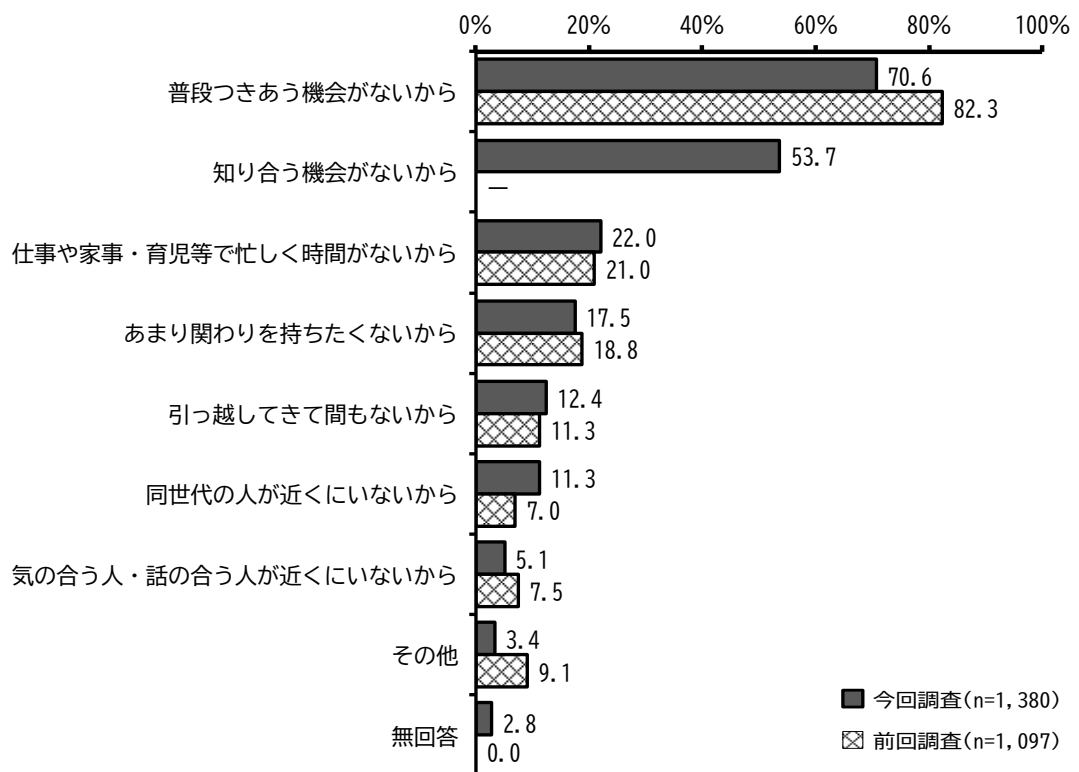
今回調査は、前回調査と同様に「普段つきあう機会がないから」（70.6%）が最も多くなっている。今回調査で追加した「知り合う機会がないから」以外の項目は前回調査と同様の傾向を示している。

図表 近所づきあいのない理由（全体：複数回答（3つまで））

<今回調査は「あいさつや会話はしないが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる」

または「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」と回答した方のみ>

<前回調査は「ほとんど近所づきあいをしない」と回答した方のみ>

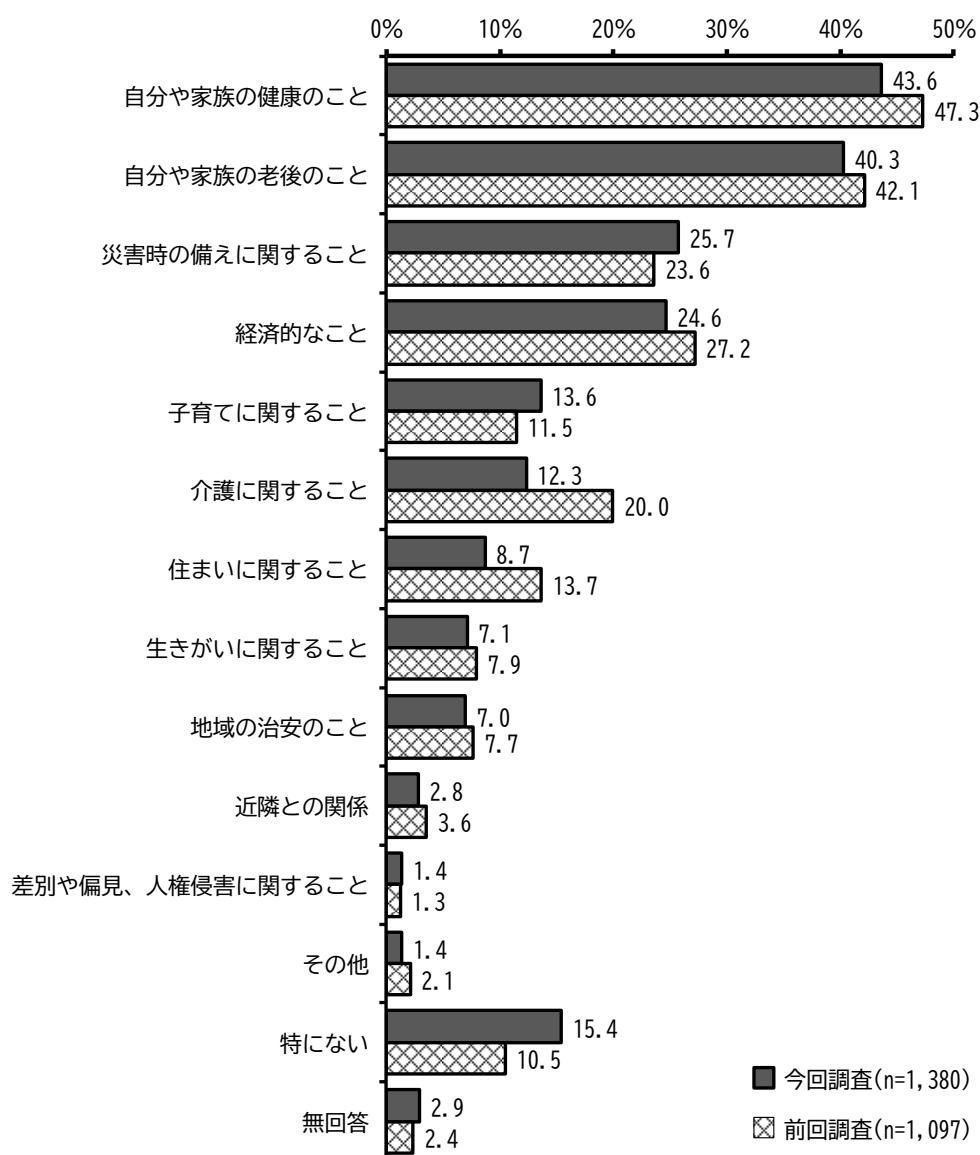


### 3 日常生活の悩みや不安：問9（複数回答（3つまで））

今回調査は前回調査と同様に「自分や家族の健康のこと」（43.6%）が最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」（40.3%）となっている。前回調査では、第3位が「経済的なこと」（27.2%）となっていたが、今回調査では、「災害時の備えに関すること」（25.7%）が続いている。

今回調査は、前回調査と選択肢が一部異なるが、前回調査より「介護に関すること」は7.7ポイント、「住まいに関すること」は5.0ポイント低くなっている。また、前回調査では「特にない」が10.5%だったが、今回調査では15.4%と高くなっている。

図表 日常生活の悩みや不安（全体：複数回答（3つまで））



※前回調査は「介護のこと」は「介護に関すること」、「経済的なこと」は「経済的な問題」、「近隣との関係」は「隣近所との関係」、「住まいに関すること」は「住宅のこと」である。

前回調査では選択肢が一部異なるが、福祉6圏域別にみると、今回調査は前回調査より「子育てに関すること」の割合が、第四地区と第六地区で5ポイント以上高くなっており、「災害時の備えに関すること」の割合が、第五地区と第六地区で9ポイント程度高くなっている。一方、「介護に関すること」の割合は、すべての圏域で割合が低くなっており、特に第四地区で11.7ポイント低くなっている。

また、「特にない」の割合は、すべての圏域で前回調査より今回調査の方が割合が高くなっている。

図表 日常生活の悩みや不安（全体、福祉6圏域別：複数回答（3つまで））

			（%）							
			自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	介護に関すること	経済的なこと	近隣との関係	
全体	今回調査	(n=1,380)	43.6	40.3	7.1	13.6	12.3	24.6	2.8	
	前回調査	(n=1,097)	47.3	42.1	7.9	11.5	20.0	27.2	3.6	
福祉6圏域	第一地区	今回調査	(n=288)	44.4	42.7	8.7	13.5	12.2	25.7	4.2
		前回調査	(n=217)	45.6	38.7	6.9	14.7	20.3	30.0	2.3
	第二地区	今回調査	(n=263)	41.1	42.2	7.6	11.0	13.3	25.5	2.3
		前回調査	(n=211)	46.9	40.3	10.4	11.8	17.1	29.9	2.8
	第三地区	今回調査	(n=229)	45.4	41.9	4.4	12.7	13.1	22.7	2.2
		前回調査	(n=183)	43.2	42.1	8.2	9.8	20.8	22.4	3.8
	第四地区	今回調査	(n=169)	39.1	35.5	6.5	13.6	10.7	21.9	1.2
		前回調査	(n=143)	49.0	49.0	6.3	7.0	22.4	26.6	2.8
	第五地区	今回調査	(n=171)	45.0	39.8	5.8	16.4	14.6	26.3	2.9
		前回調査	(n=139)	51.1	41.7	7.2	15.8	20.9	25.2	6.5
	第六地区	今回調査	(n=243)	45.3	38.7	8.6	16.5	10.7	25.9	3.7
		前回調査	(n=191)	49.2	44.5	7.9	9.9	20.4	27.7	3.7

			住まいに関すること	地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	差別や偏見、人権侵害に関すること	特にない	その他	無回答	
全体	今回調査	(n=1,380)	8.7	7.0	25.7	1.4	15.4	1.4	2.9	
	前回調査	(n=1,097)	13.7	7.7	23.6	1.3	2.1	10.5	2.4	
福祉6圏域	第一地区	今回調査	(n=288)	9.7	6.9	21.2	1.4	17.7	1.0	1.7
		前回調査	(n=217)	16.6	7.4	21.2	0.9	12.9	2.8	0.5
	第二地区	今回調査	(n=263)	6.8	5.3	27.4	1.5	13.7	1.1	4.6
		前回調査	(n=211)	11.4	8.5	26.1	0.0	10.9	1.9	2.8
	第三地区	今回調査	(n=229)	7.9	7.0	20.5	0.9	18.3	0.9	2.6
		前回調査	(n=183)	15.8	9.8	25.7	2.2	9.3	2.2	5.5
	第四地区	今回調査	(n=169)	9.5	7.7	25.4	2.4	17.8	4.1	2.4
		前回調査	(n=143)	9.1	7.0	25.2	1.4	7.7	2.8	2.1
	第五地区	今回調査	(n=171)	11.1	4.7	26.9	1.2	12.3	1.2	2.9
		前回調査	(n=139)	18.7	7.2	18.0	3.6	7.9	2.9	0.7
	第六地区	今回調査	(n=243)	8.6	9.5	33.3	0.8	12.3	0.8	2.9
		前回調査	(n=191)	9.9	6.3	24.6	0.0	11.5	0.5	2.1

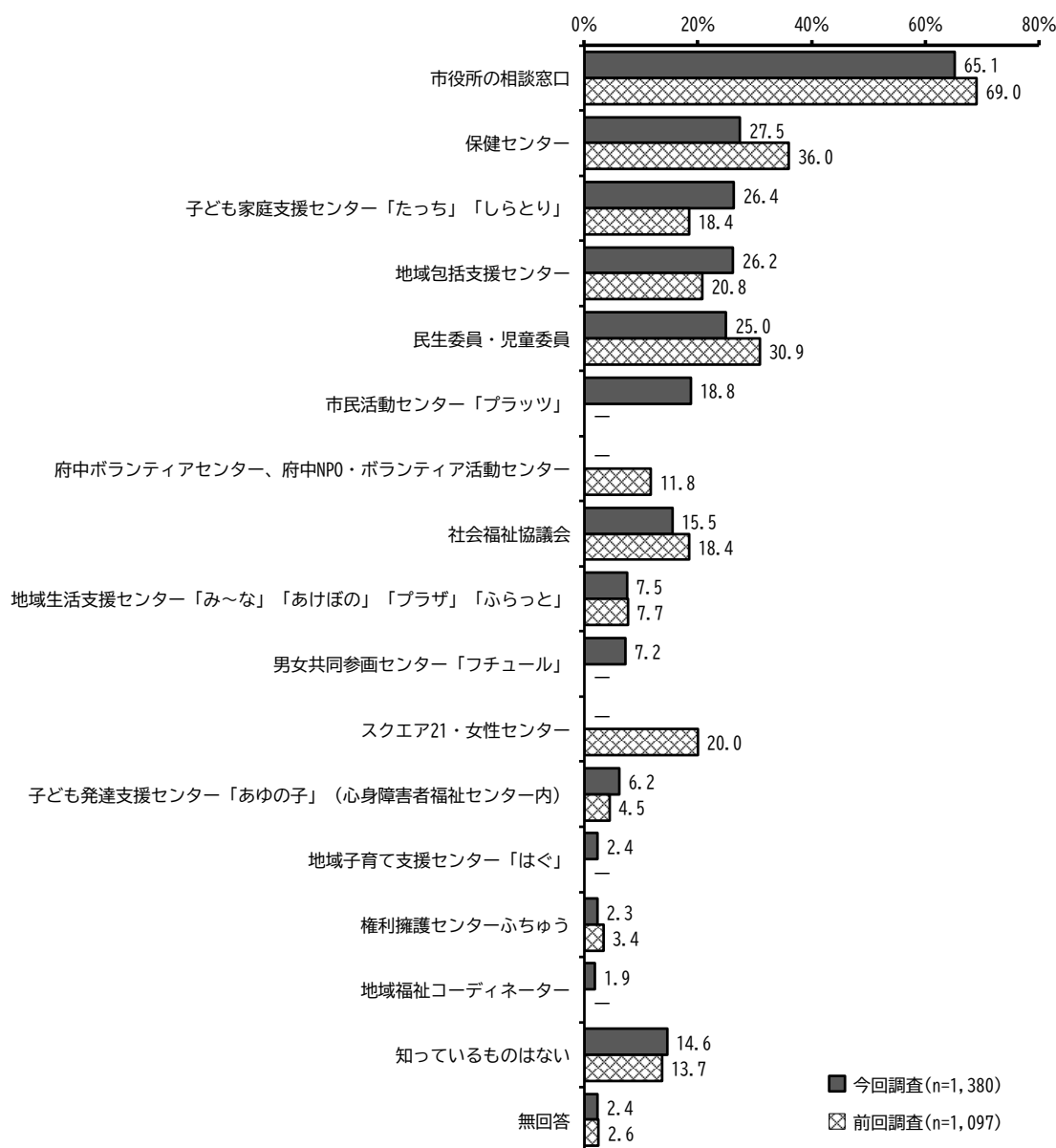
※前回調査は「介護のこと」は「介護に関すること」、「経済的なこと」は「経済的な問題」、「近隣との関係」は「隣近所との関係」、「住まいに関すること」は「住宅のこと」である。

## 4 相談窓口の認知度：問 12（ア）（複数回答）

今回調査は前回調査と同様に「市役所の相談窓口」（65.1%）が最も多く、次いで「保健センター」（27.5%）となっている。前回調査では、第3位が「民生委員・児童委員（30.9%）」となっていたが、今回調査では、「子ども家庭支援センター「たち」「しらとり」（26.4%）」が続いている。

今回調査は、前回調査より「子ども家庭支援センター「たち」「しらとり」と「地域包括支援センター」の認知度は高くなっているが、「市役所の相談窓口」、「保健センター」、「民生委員・児童委員」、「社会福祉協議会」、「地域生活支援センター「み～な」「あけぼの」「プラザ」「ふらっと」の認知度は低くなっている。

図表 相談窓口の認知度（全体：複数回答）



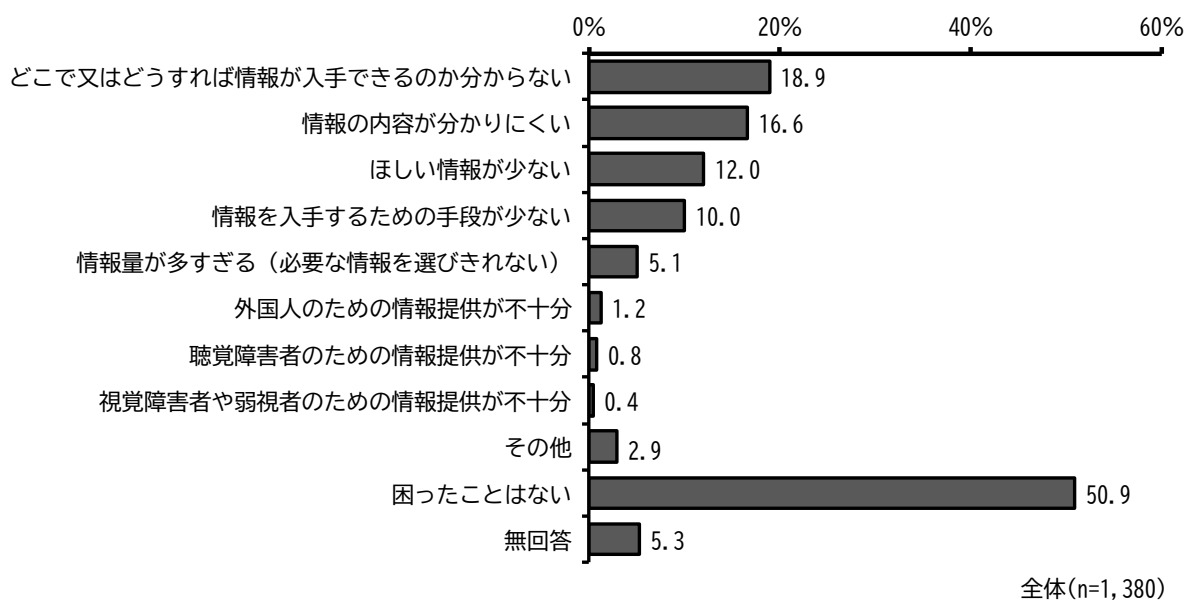
※前回調査の「都の保健所」、「児童相談所」、「心身障害者福祉センター」、「消費生活相談室」、「オンブズパーソン制度」は除いている。

## 5 情報を入力する際、特に困っていること：問 16（イ）（複数回答）

今回調査は、「どこで又はどうすれば情報が入手できるのか分からない」（18.9%）が最も多く、次いで「情報の内容が分かりにくい」（16.6%）、「ほしい情報が少ない」（12.0%）と続いている。

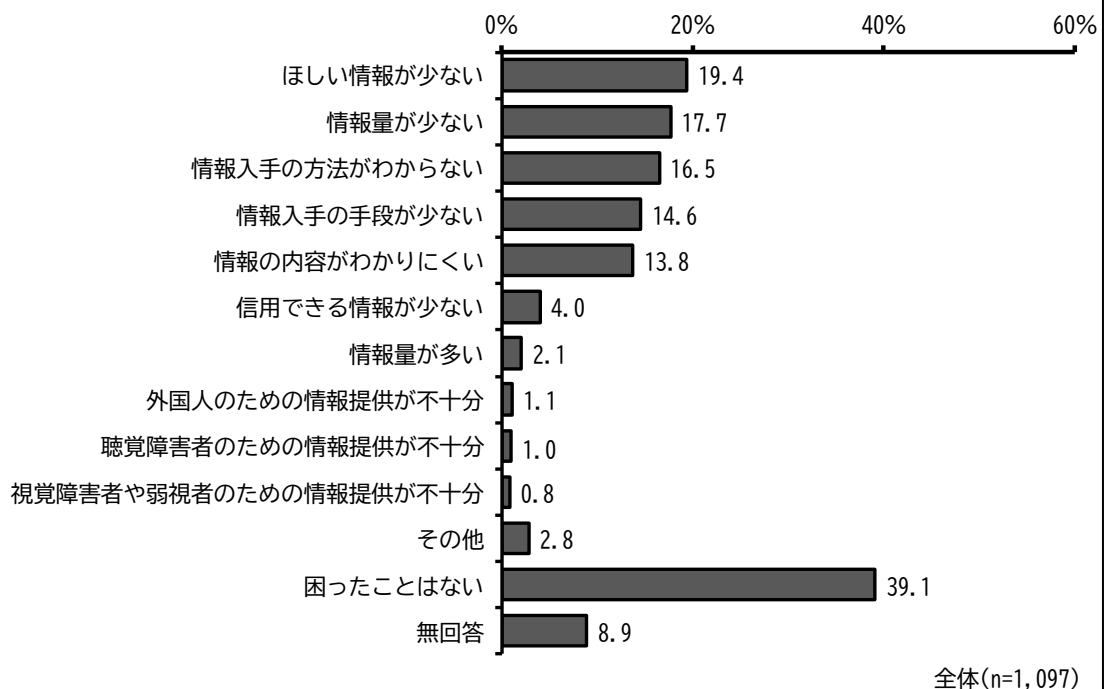
前回調査では選択肢が一部異なるが、「ほしい情報が少ない」（19.4%）が最も多く、次いで「情報量が少ない」（17.7%）、「情報入手の方法がわからない」（16.5%）と続いている。また、前回調査では「困ったことはない」は39.1%だったが、今回調査は50.9%と11.8ポイント高くなっている。

図表 情報を入力する際、特に困っていること  
（全体：複数回答（今回調査は3つまで、前回調査はいくつでも））



<参考（前回調査）>

図表 情報を入力する際、困っていること（全体：複数回答）



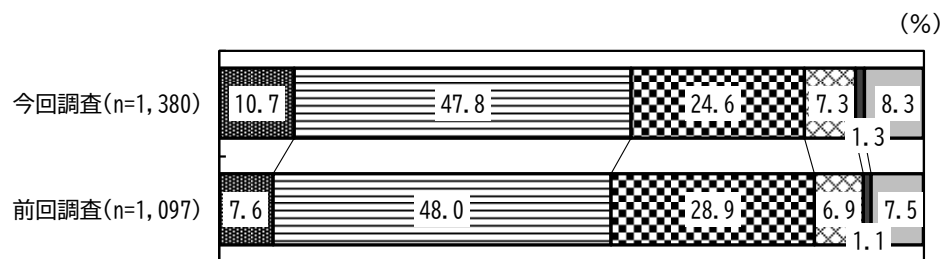
## 6 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況：問 17

今回調査は、「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた《整備されている》の割合が『(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター』で7割を超え、『(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ』、『(5) 点字ブロックや視覚障害者用の信号機』、『(6) 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス』、『(7) 障害等のある方用の駐車場』で5割を超えているが、前回調査より低くなっている。

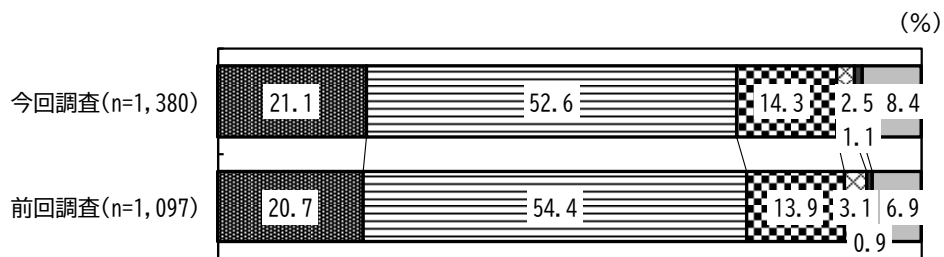
一方、《整備されている》の割合が『(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げる）』、『(4) 歩きやすいように、障害物（商品や看板、放置自転車、電柱等）が取り除かれた歩道や道路』、『(10) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等』で、前回調査より高くなっている。また、『(11) (1)～(10) や公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン』も《整備されている》の割合が高くなっている。

図表 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況（全体）

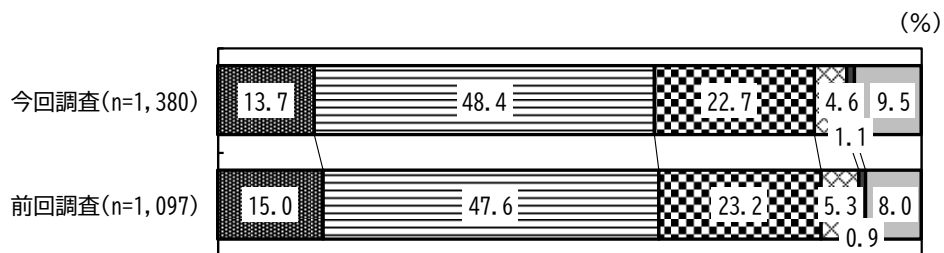
(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げる）



(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター



(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ

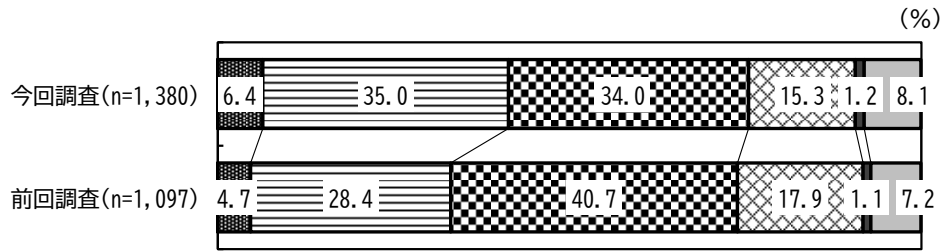


整備されている
  やや整備されている
  あまり整備されていない

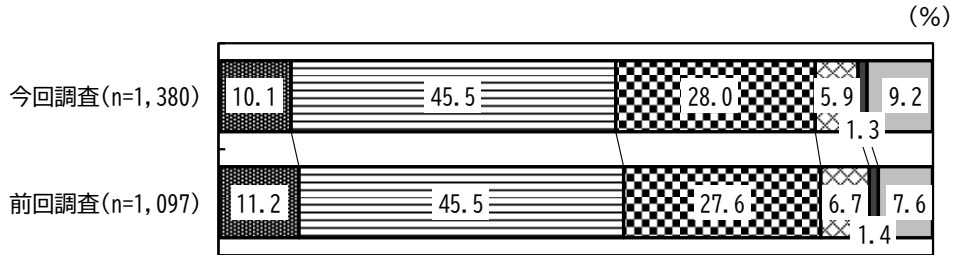
整備されていない
  整備の必要を感じない
  無回答



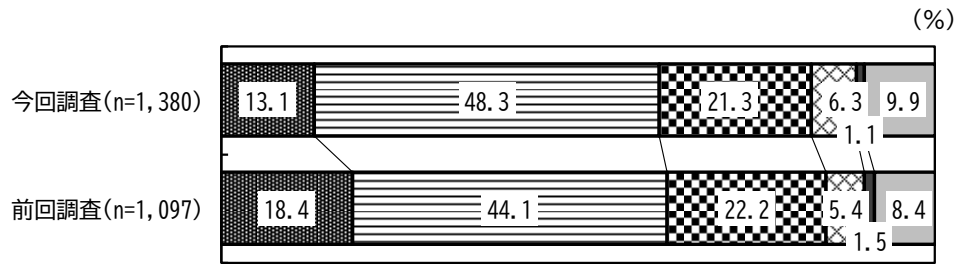
(4) 歩きやすいように、障害物（商品や看板、放置自転車、電柱等）が取り除かれた歩道や道路



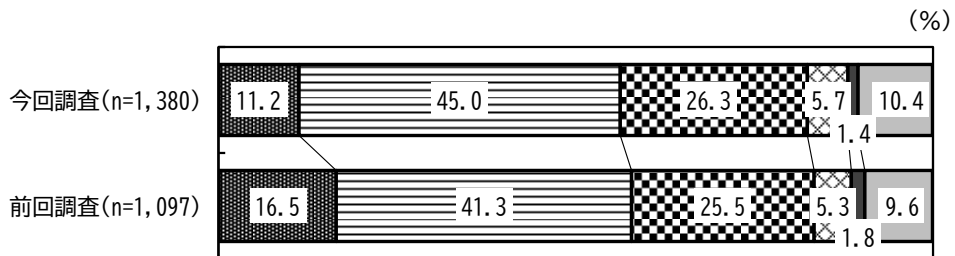
(5) 点字ブロックや視覚障害者用の信号機



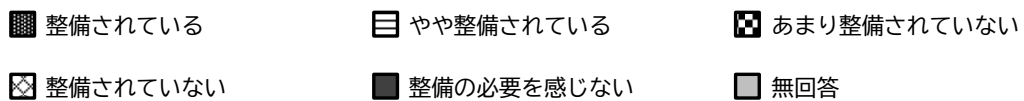
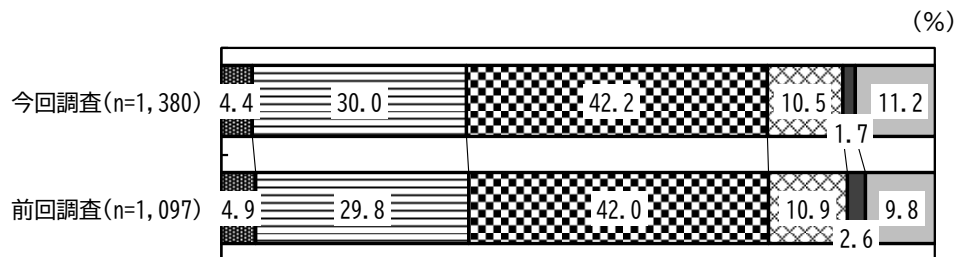
(6) 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス



(7) 障害等のある方用の駐車場



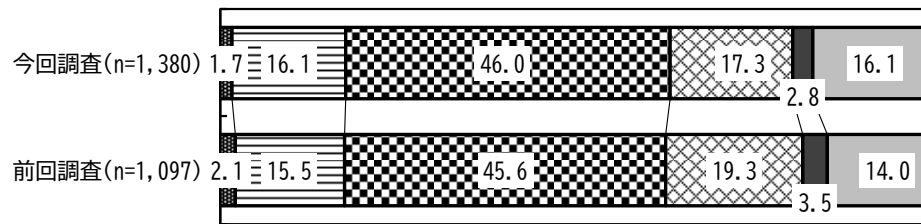
(8) 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もが分かりやすい案内標示



※前回調査は(7)は「障害者用の駐車場」である。

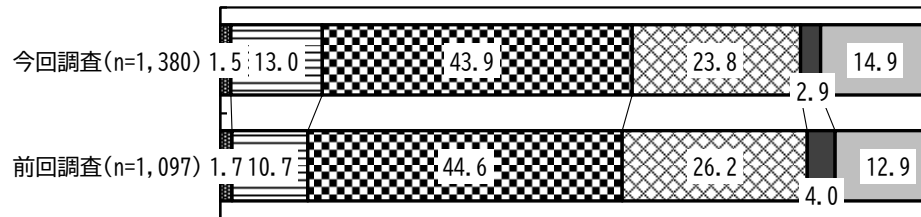
(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設

(%)



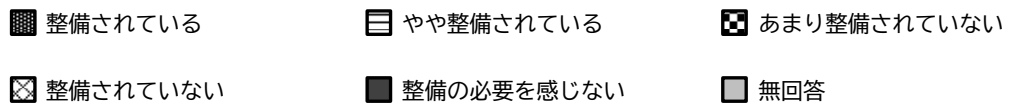
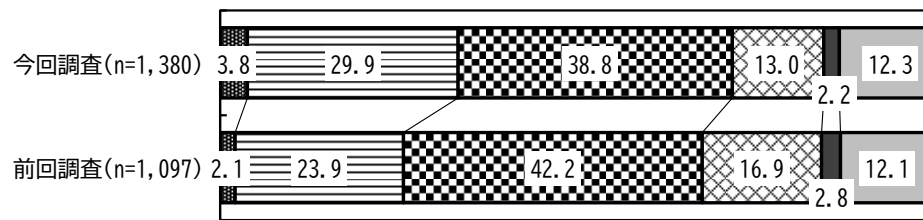
(10) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等

(%)



(11) (1) ~ (10) や公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン

(%)

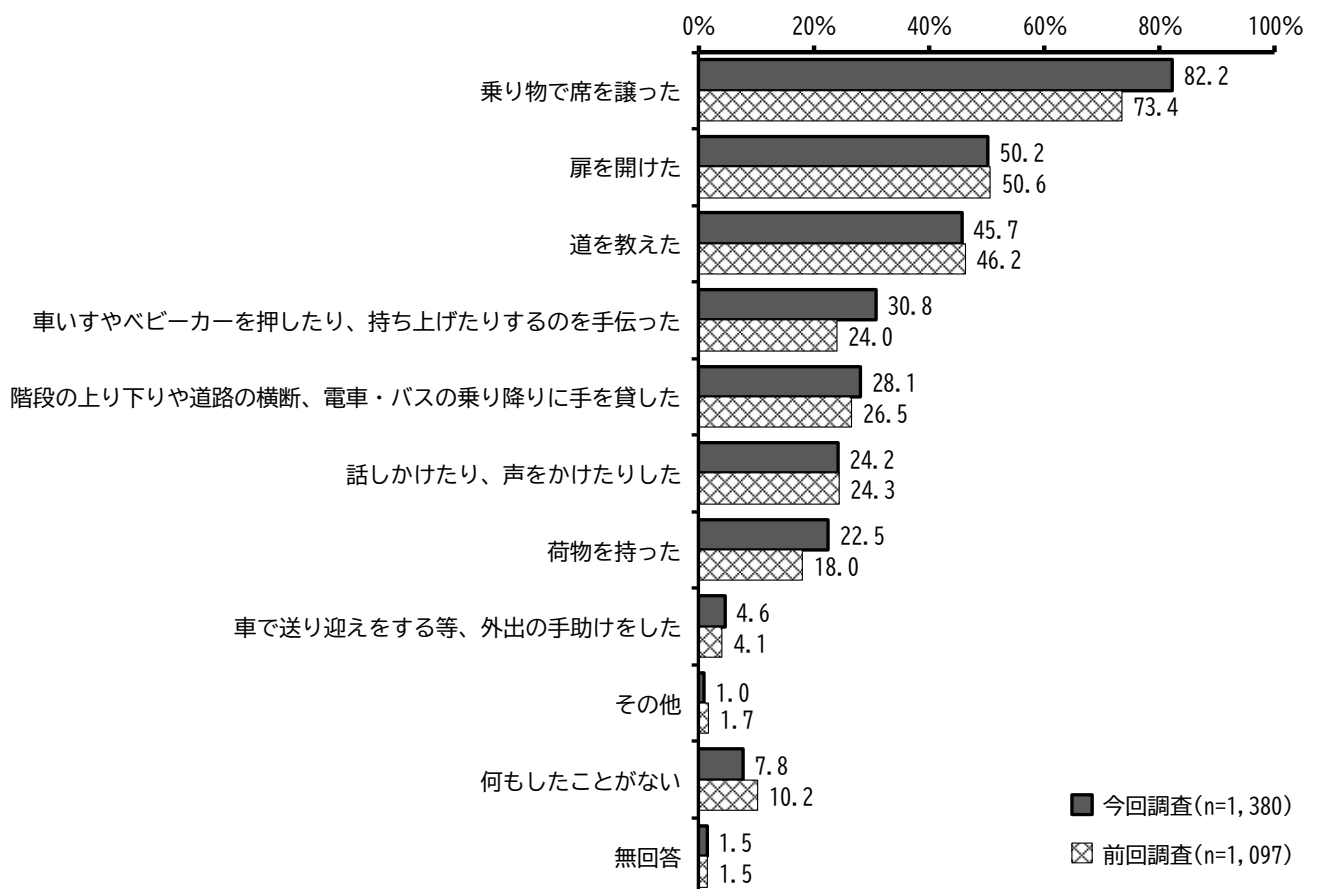


## 7 外出先での手助けの経験：問 18（複数回答）

今回調査は前回調査と同様に、「乗り物で席を譲った」（82.2%）が最も多く、次いで「扉を開けた」（50.2%）、「道を教えた」（45.7%）が続いている。今回調査は前回調査より、「乗り物で席を譲った」が 8.8 ポイント、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った」が 6.8 ポイント高くなっている。

「何もしたことがない」の割合は、今回調査は 7.8%、前回調査は 10.2%で、何もしたことがない人の割合がわずかに低くなっている。

図表 外出先での手助けの経験（全体：複数回答）

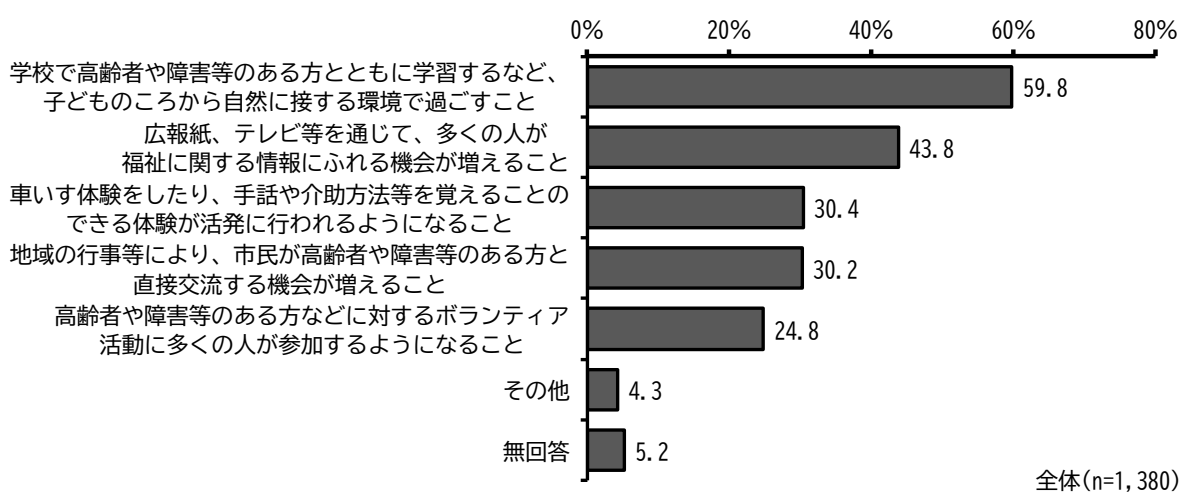


## 8 心のバリアフリーを進めるために必要なこと：問 19 (複数回答 (3つまで))

今回調査は、「学校で高齢者や障害等のある方とともに学習するなど、子どもたちから自然に接する環境で過ごすこと」(59.8%)が最も多く、次いで「広報紙、テレビ等を通じて、多くの人が福祉に関する情報にふれる機会が増えること」(43.8%)と続いている。

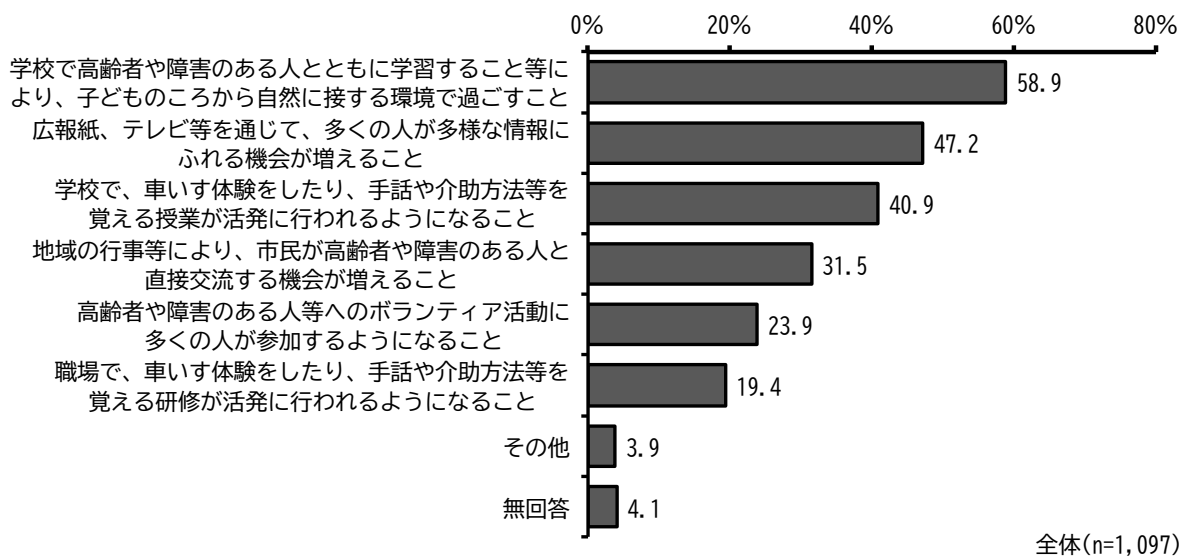
前回調査では選択肢が一部異なるが、前回調査でも「学校で高齢者や障害のある人とともに学習すること等により、子どもたちから自然に接する環境で過ごすこと」が 58.9%と最も多くなっている。

図表 心のバリアフリーを進めるために必要なこと (全体：複数回答 (3つまで))



### <参考 (前回調査)>

図表 心のバリアフリーを進めるために必要なこと (全体：複数回答 (3つまで))

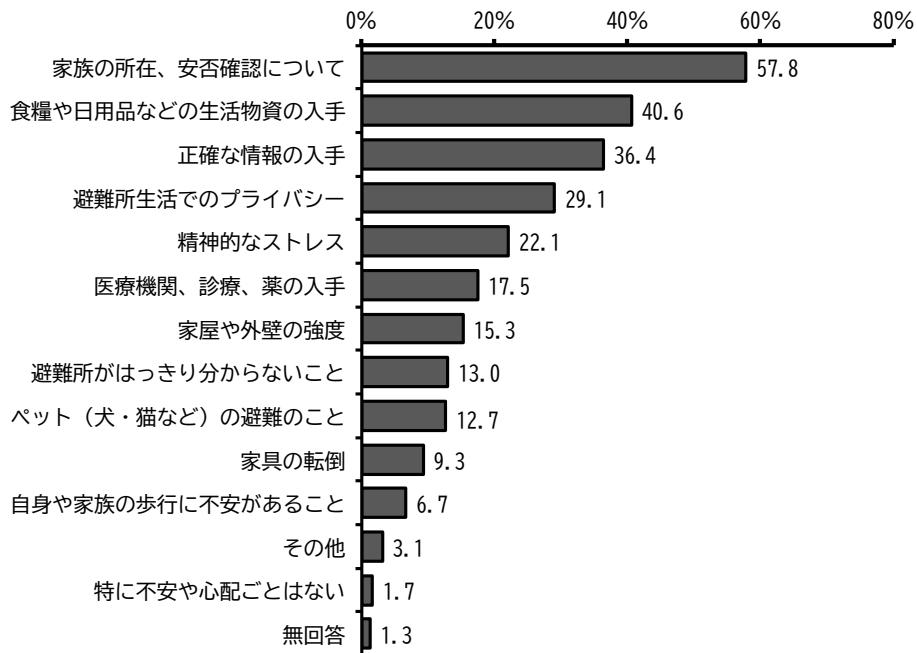


## 9 災害時の不安や心配ごと：問 21（複数回答）

今回調査は、「家族の所在、安否確認について」（57.8%）が最も多く、次いで「食糧や日用品などの生活物資の入手」（40.6%）、「正確な情報の入手」（36.4%）と続いている。

前回調査では選択肢が一部異なるが、「所在、安否の確認」（67.8%）が最も多く、次いで「正確な情報の入手」（55.0%）、「避難生活」（54.1%）が続いている。

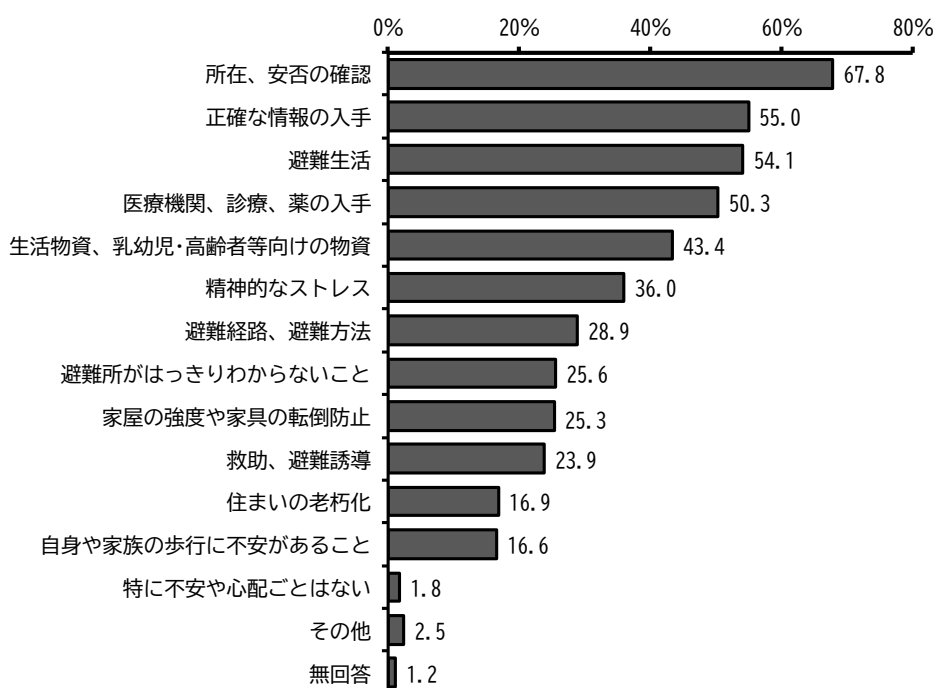
図表 災害時の不安や心配ごと（全体：複数回答（3つまで））



全体(n=1,380)

### <参考（前回調査）>

図表 災害時の不安や心配ごと（全体：複数回答（いくつでも））



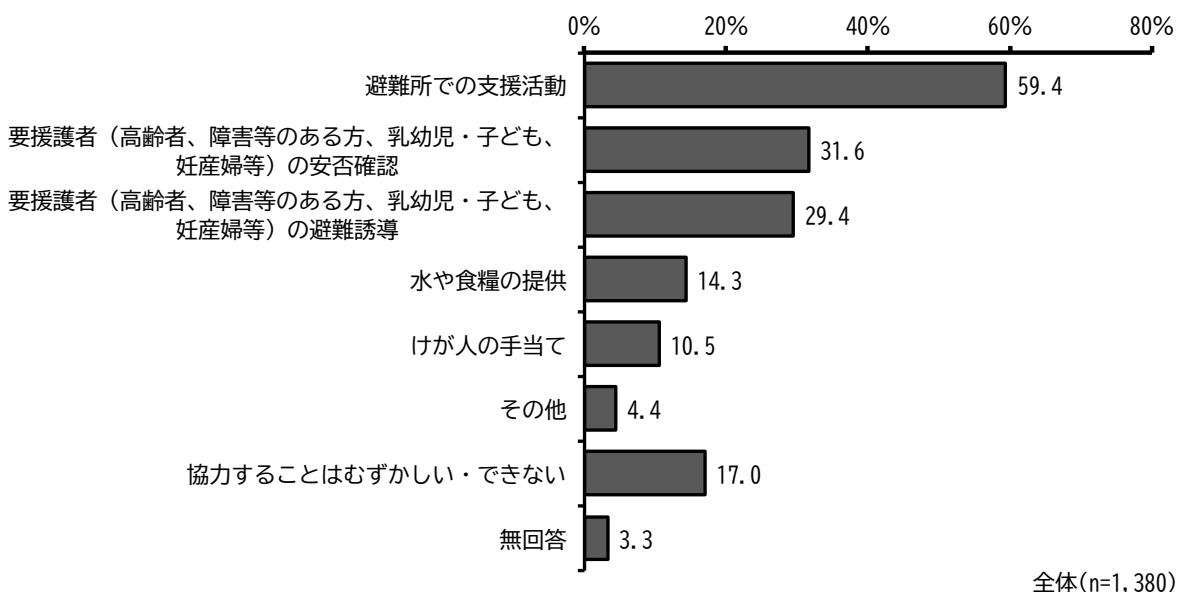
全体(n=1,097)

## 10 災害時に手助けが必要な方にできること：問 24（複数回答）

今回調査は、「避難所での支援活動」（59.4%）が最も多く、次いで「要援護者（高齢者、障害者のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の安否確認」（31.6%）、「要援護者（高齢者、障害者のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の避難誘導」（29.4%）と続いている。

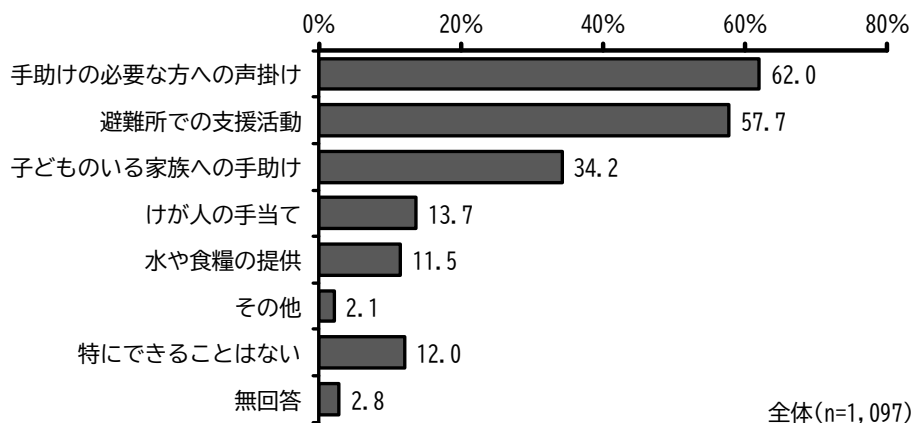
前回調査では選択肢が一部異なるが、「手助けの必要な方への声掛け」（62.0%）が最も多く、次いで「避難所での支援活動」（57.7%）、「子どものいる家族への手助け」（34.2%）が続いている。

図表 災害時に手助けが必要な方にできること（全体：複数回答）



<参考（前回調査）>

図表 手助けが必要な方に自分ができること（全体：複数回答）

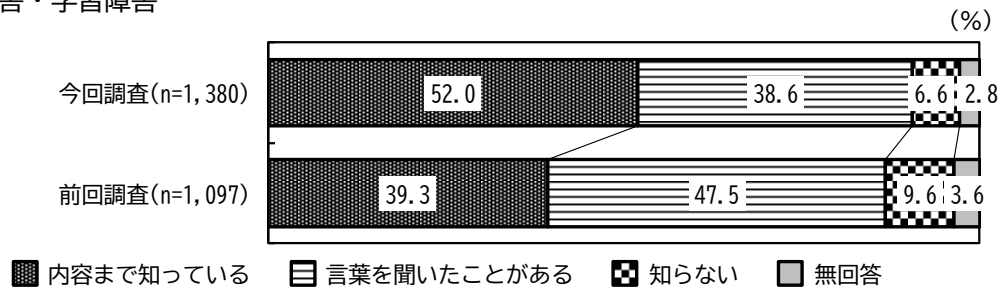


## 11 障害や制度の認知度：問 25

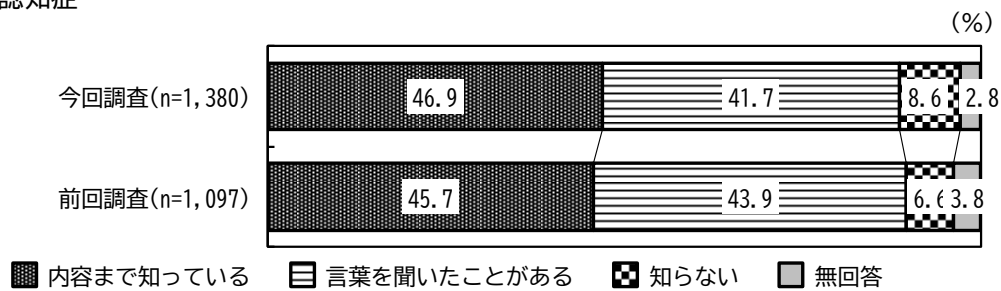
前回調査と同じ項目である『発達障害・学習障害』、『若年性認知症』、『成年後見制度』はすべて「内容まで知っている」が前回調査より高くなっている。特に『発達障害・学習障害』では、「内容まで知っている」が12.7ポイント高くなっている。

図表 障害や制度の認知度（全体）

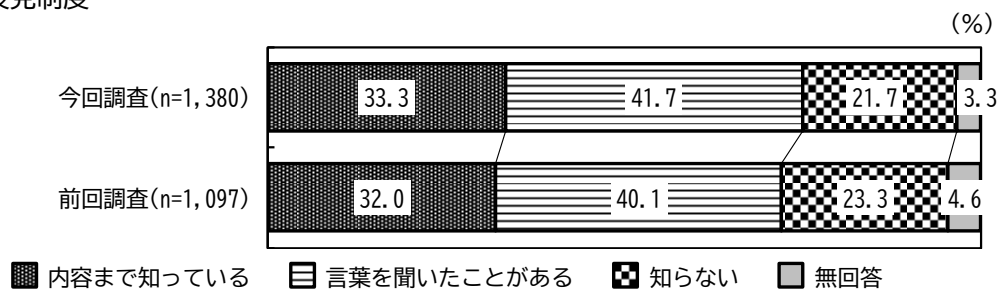
### 発達障害・学習障害



### 若年性認知症



### 成年後見制度



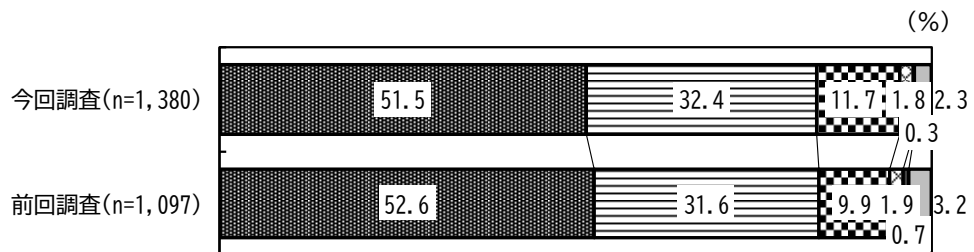
## 12 福祉に関する考え方：問 27

今回調査は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》の割合が、『経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である』、『生活保護受給者に対する偏見や差別がある』、『ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である』で前回調査より高くなっている。

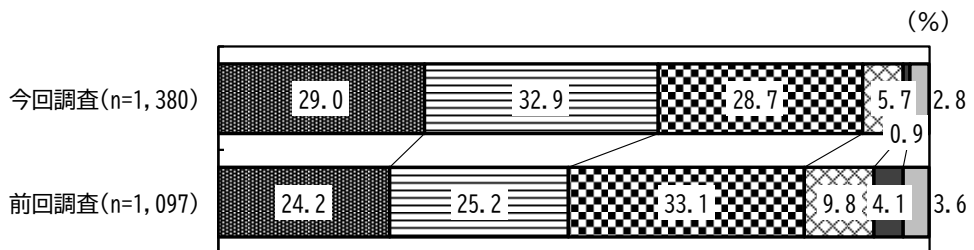
一方、《そう思う》の割合が『障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』、『児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』、『DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である』、『ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である』で前回調査より低くなっている。

図表 福祉に関する考え方（全体）

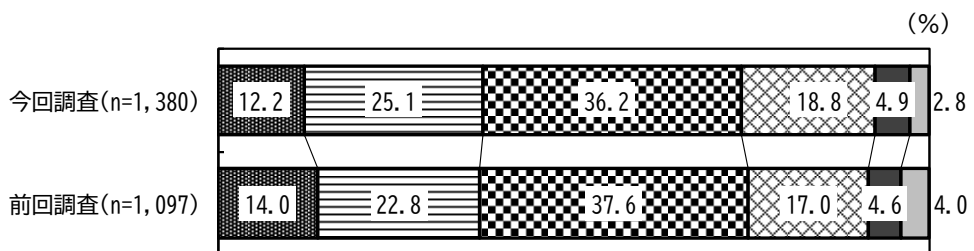
(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である



(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である



(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある

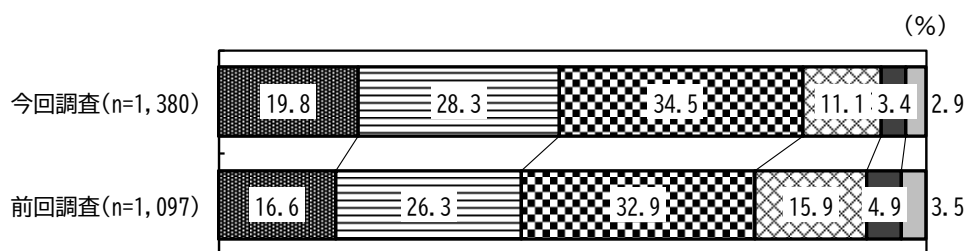


■ そう思う      ▨ どちらかといえばそう思う      ▩ どちらともいえない  
 ▤ あまり思わない      ■ 全く思わない      □ 無回答

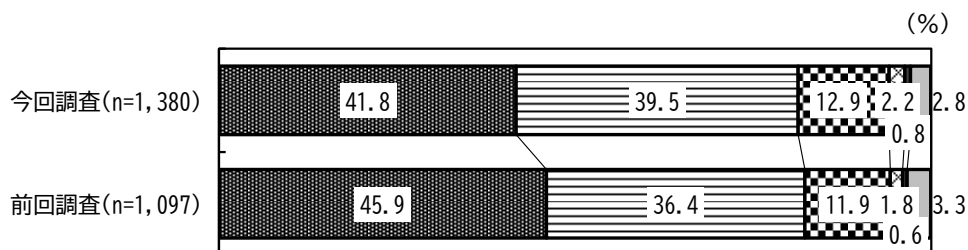
※前回調査は(1)は「障害のある人とない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である」、(2)は「ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる」、(3)は「生活保護受給者に対する偏見や差別があると感じる」である。



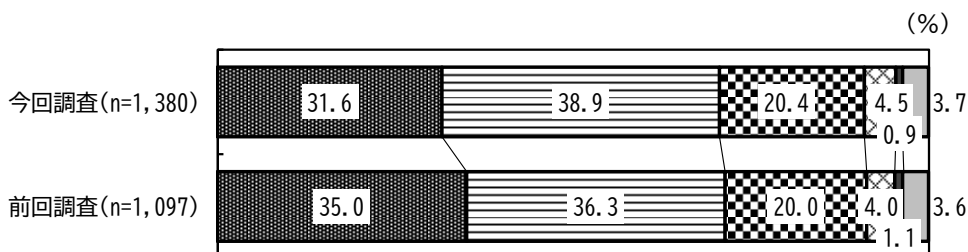
(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である



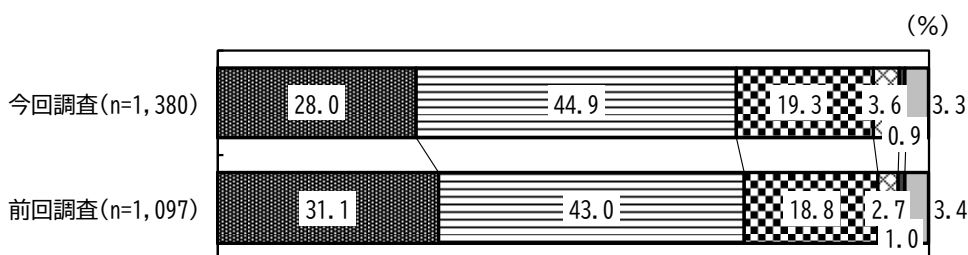
(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である



(6) DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である



(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である



- そう思う
- ▨ どちらかといえばそう思う
- ▣ どちらともいえない
- ▤ あまり思わない
- 全く思わない
- 無回答

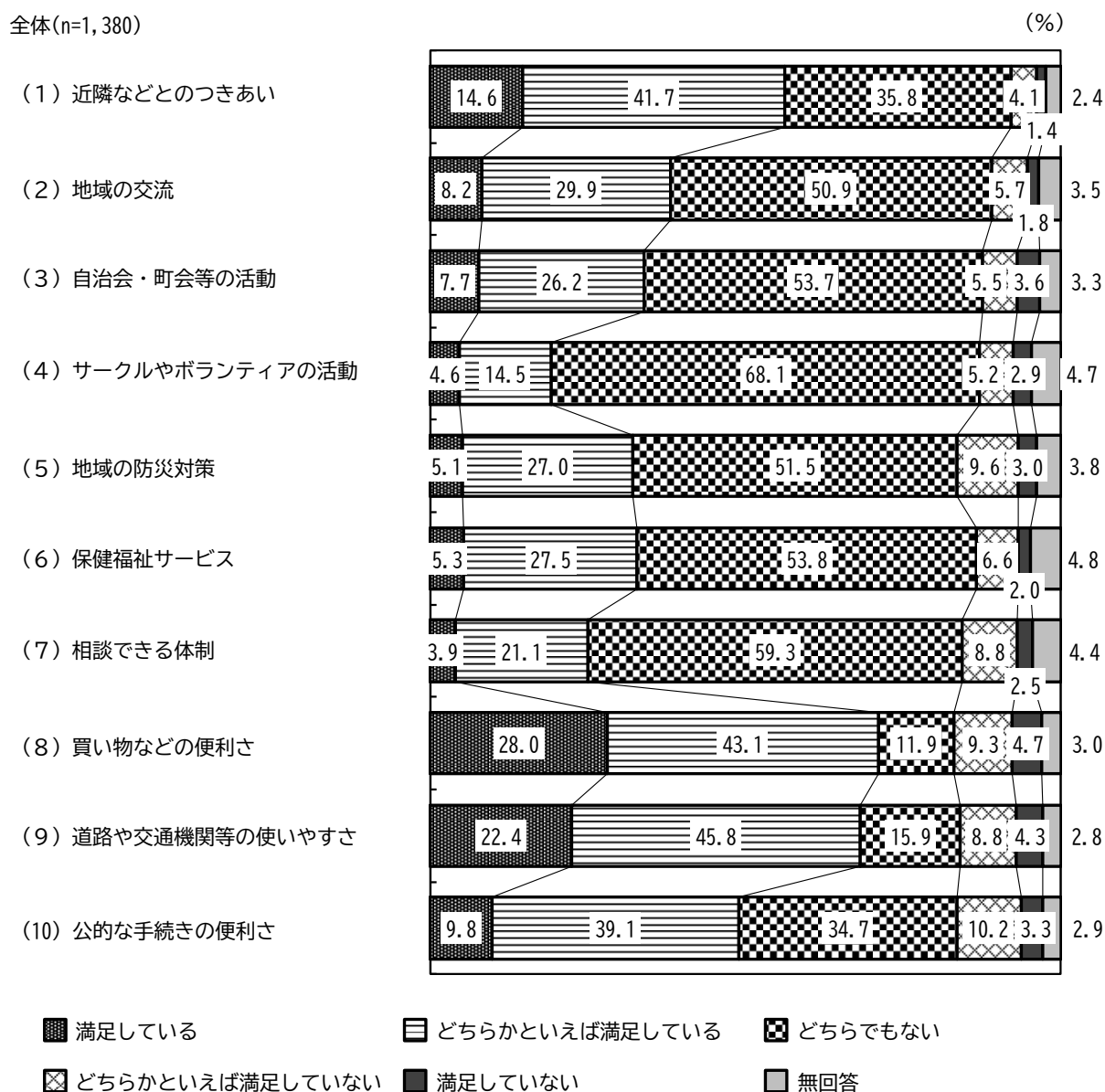
※前回調査は(4)は「ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる」、(5)は「児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である」である。

### 13 地域の暮らしの満足度：問 28

今回調査は、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた《満足している》の割合が『近隣などとのつきあい』、『買い物などの便利さ』、『道路や交通機関等の使いやすさ』、『公的な手続きの便利さ』で5～7割程度で高くなっている。一方、《満足している》の割合が『地域の交流』、『自治会・町会等の活動』、『サークルやボランティアの活動』、『地域の防災対策』、『保健福祉サービス』、『相談できる体制』で2～4割程度で低くなっている。

前回調査では選択肢が異なるが、「満足」の割合が『買い物等の便利さ』、『道路や交通機関等の使いやすさ』で5割を超え、『隣近所等とのつきあい』、『公的な手続きの便利さ』で3割程度と高くなっている。一方、『町内会・自治会の活動』で「満足」の割合が2割程度、『地域の交流』、『サークルやボランティアの活動』、『地域の防災対策』、『保健福祉サービス』、『相談できる体制』で1割程度と低くなっている。

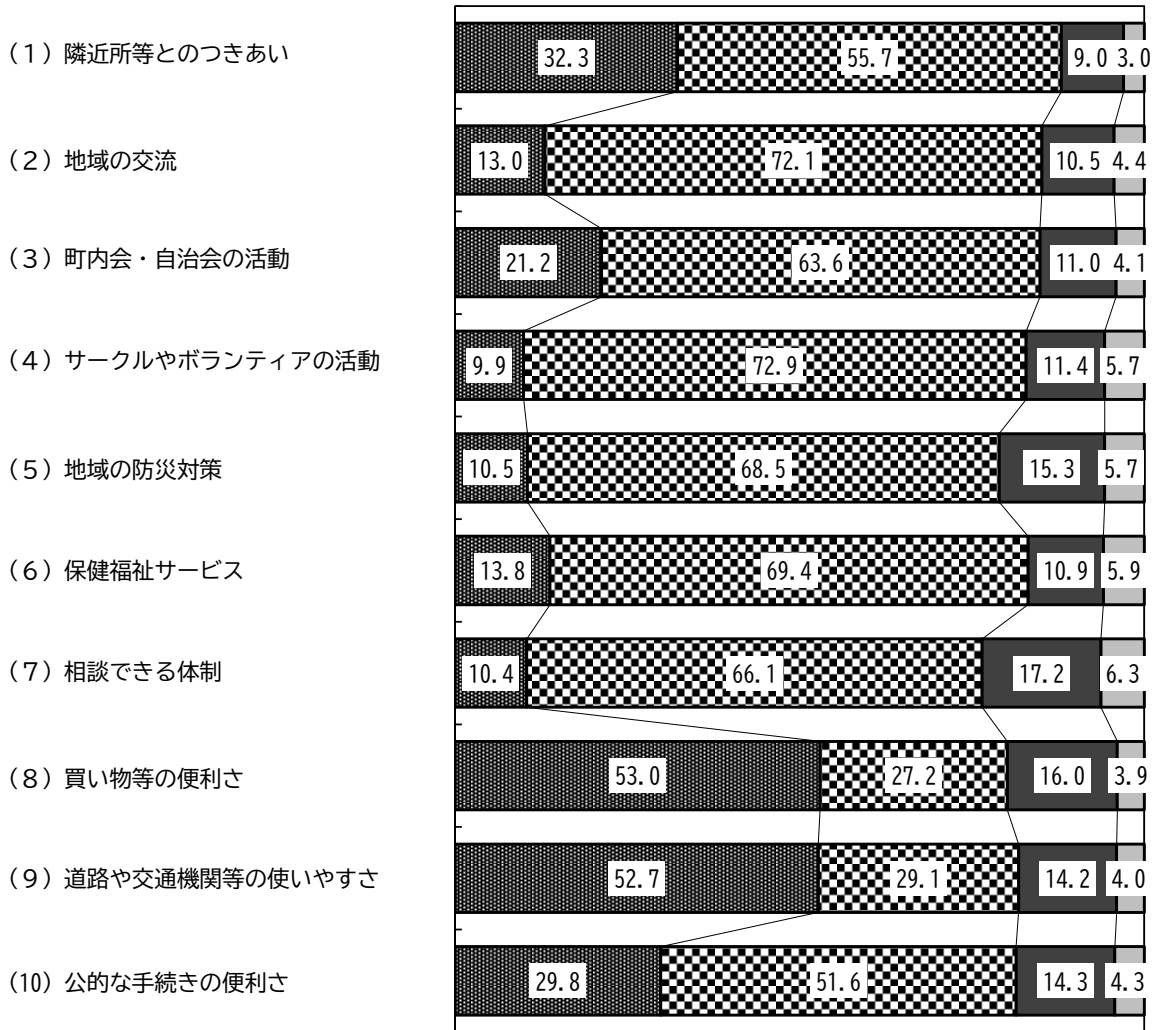
図表 地域の暮らしの満足度（全体）



図表 地域の暮らしの満足度（全体）

全体(n=1,097)

(%)



■ 満足    ■ どちらでもない    ■ 満足していない    ■ 無回答